

水 泳 静 岡

東京 2020 オリンピック・パラリンピック特集！

コロナ禍の中、最後の最後まで開催の賛否について様々な意見がありました。・・・。

この夏、その東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の、「熱い」「熱い」幕が開けられ、多くの勇姿と出会うことができました。

今回は、オリンピック・パラリンピックで活躍された、静岡県の選手、チームスタッフ、運営スタッフのみなさまにインタビューをさせていただきました。大舞台で活躍された方、陰ながら大会を支えた方、みなさまの声や写真を「特集」としてお届けしました！

どうぞお楽しみください！【☆：質問、★：回答】なお、結果や省略した部分等については、当協会ホームページ<<http://www.shizuoka-swim.jp/index.html>>に掲載予定です。

◎東京 2020 オリンピック 競技大会

【開催期間：2021年7月23日開会式～2021年8月8日閉会式】

～競泳日本代表選手 高橋 航太郎 選手～ <自衛隊・静岡東高校卒>

☆「今回のオリンピックでのご自身の成績を振り返って、いかがでしたか？」

★「初出場で緊張もしましたが、自分のペースで200mを泳ぎ切れたことはとても大きな成果であり、大きな経験であったと思います。ただ、決勝が目標だったから悔しい思いはありますね。

記録としても1分46秒台が目標だったので、それに届かなかったことにも悔しさが残りました。」



スプリント選手権にて

☆「初のオリンピック出場を経験して感じたことを教えてください。」

★「多くの決勝レースを見る機会があり、レースを見ながらいろいろなことを考えました。自分のレベルをもうひとつ上げられれば、自分自身がこのオリンピックでもっともっと楽しさを感じられると強く思いました。そして、その楽しみを得るために、『もう少しがんばってみよう』と思いました。今後のモチベーションにつながりました！」

☆「応援していた静岡県の水泳仲間一言いただけますか？」

★「地元のみなさまに応援していただく機会が多くあり、それをとても身近に感じ、心強かったです。これはとても嬉しく、大きな力となり、感謝の気持ちでいっぱいです。それから、ジュニアの選手のみなさんに向けて伝えたいことがあります。私自身は、トップ選手ではありませんで

した。そこから努力に努力を重ねて、オリンピックの切符を手にしました。このような自分の姿を通して、「やればできる」という気持ちをもってこれからもオリンピックを目指してがんばってほしいと思います。」

～OWS 日本代表チーム監督 杉山 康 監督～

＜静岡県水泳連盟 競技力向上・

東京オリンピック強化推進特別委員長＞

☆「オリンピックを通して最も印象に残ったことはどんなことでしたか？」

★「メダリストは、競泳 1500m の強い選手でした。『OWS は、10 キロメートルを泳ぐ競技ですが、それを考えれば競泳 1500m は楽だと思えるでしょう？』レースを見ながらそのようなことを考えていました。高校時代から、どちらも強化していき、どちらも戦力になる選手（＝「デュアルスイマー」）を目指して、どんどんチャレンジして行ってほしいと強く感じましたね。」



マラソンスイミング役員
（飛龍高校卒業生 3 人）と！

☆「選手村の様子はいかがでしたか？」

★「海外選手はとてもフレンドリーで、あいさつを交わしたり、ピンバッジを交換したりして、とても和やかに、楽しく過ごせました。食事もとてもよかったですよ。本当においしかったです！」

☆「オリンピックを振り返って、日本の選手に伝えたいことはありますか？」

★「先ほども伝えましたが、世界的には、デュアルスイマーがとても増えてきています。しかしながら、日本ではまだまだ少ないと感じました。海外では今後もそのような選手が増えてくると思われますので、日本でも強化していく必要性を強く感じました。プールでの泳力の高い選手が OWS でも活躍できているので、この辺りもふまえて、進む方向を考えていくことも大事だと思っています。これからの選手は、ぜひ、両者の泳ぎを磨き、デュアルスイマーとして挑戦して行ってほしいと思います。」



選手村五輪マーク前にて全員集合！

【写真提供：杉山康監督】

※杉山監督には、この他にもお写真をいただきました。後日当連盟ホームページにてご紹介いたしますので併せてご覧ください。

～飛込競技解説者 内藤 英樹さん～ <静岡県水泳連盟 飛込委員長>

☆内藤さんには、ご報告書をいただきました。今回はその中から抜粋してお届けします。

※全文は当連盟ホームページでご紹介させていただく予定ですので、ぜひご覧ください。

<東京 2020 オリンピック飛込競技解説の報告>※一部省略させていただいています。

◎解説種目：飛込競技

◎解説期間：2021年7月25日（日）～8月7日（土）

◎解説種目数：全競技解説（予選、準決勝、決勝）16競技

この度の東京2020オリンピックでは、大変光栄なことに飛込競技の解説を担当することとなりました。この解説についての報告と所感を述べさせていただきます。

初めに、今回この飛込競技の解説を依頼された経緯や私が依頼を受けることが出来た状況についてお話させていただきます。

まず解説の依頼につきましては、私自身が日本水泳連盟の強化部として長く在籍していたこと、また今回は、日本での開催ということで多くの飛込関係者は、直接会場で業務を行う大会運営や審判、競技役員などの担当になってしまったこと、それから残念なことに萩田選手が代表になれず代表チームのコーチから私が外れたことなどの状況から抜擢されたものと考えています。

また、依頼を受けることができた状況についても恵まれていました。（一部省略）この様に様々な条件が重なり、今回この大変貴重な体験をさせていただけたものと考えています。

そして、いざ解説を引き受け、放送担当者から内容を説明されると大変重責な案件であることに改めて気づかされました。（一部省略）

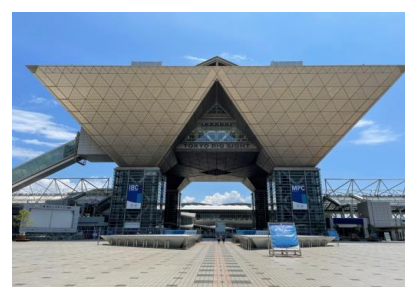
現地入りしてからはさらに大変で解説を行うスタジオは、なんと競技会場のアクアティクスセンタープールサイド（写真1）ではなく、地下鉄で二駅はなれた国際展示場駅（写真2）の東京ビックサイト（写真3）の一角であったこと、要するに私はテレビで見ている皆さんの映像（写真4）と同じものを見ながら解説をしていました。



アクアティクスセンター（写真1）



国際展示場駅モニュメント（写真2）



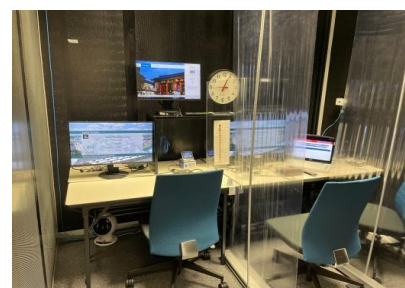
東京ビックサイト（写真3）

映像での解説の難しさは、選手個々の緊張感やオーラ、また、会場の雰囲気などが伝えにくいこと、技術やテクニック面では、映像の角度が迫力や表情を視聴者に伝える為に、常に大きく選手や演技が写されていることで、選手個々の身長差や踏切直後の高さ、着水距離を含めた全体的な流れが見えない為に、選手が瞬時に対応した技術やテクニックを見極めることが大変に困難でした。（一部省略）

飛込情報については、ホテルや空いている時間には常に解説の為に準備をしていました。（一部省略）また、大会を実写で見られない分、少しでも時間があればアクアティクスセンターに足を運び、大会直前の練習を見て選手の様子を確認していました。

このような調子で2週間飛込競技の解説をさせて頂きました。大変ではありましたが幸せな時間を頂きました。

最後に、飛込競技を知らなかったアナウンサーが勉強をして解説している姿、日々の努力を全力で出し切るスポーツ選手、そんな姿を見ることで、「一生懸命」の素晴らしさを再確認することができました。ありがとうございました。【写真提供：内藤英樹さま】



解説スタジオ（写真4）

◎東京 2020 パラリンピック 競技大会

【開催期間：2021年8月24日開会式～2021年9月5日閉会式】

～パラ水泳日本代表選手 鈴木 孝幸 選手～<ゴールドウイン・聖隷クリストファー高校卒>

☆「この2020東京パラリンピックでのご自身のレースを振り返って一言お願いいたします。」

★「複数個金メダルを獲得するという目標は達成出来ませんでした。もう一つの目標であった出場する全ての種目でメダルを獲得することができ、満足しています。また13年ぶりに金メダルが獲れたことも嬉しく思います。」

☆「以前は、練習があまり好きではないという印象がありましたが（笑）、この結果を獲得するために、どんな工夫をし、どんな練習をされてきたのか、教えてください。」

★「リオパラリンピック以降は、ウエイトトレーニングのメニューを変えて、体感部分の強化や上半身と下半身の連動を意識したトレーニングをしてきました。また平泳ぎの呼吸の回数や自由形のターンなど泳ぎのテクニックの変更にも着手しました。今でも練習は好きではありませんが、やらなければ勝てませんので。（笑）」



100m 自由形での金メダル！

☆「この大会では、チームのキャプテンでもありました。チーム全体を振り返って、今後の日本パラ水泳チームへの思い、そして世の中におけるパラスポーツ・パラ水泳への思いや今後の活動について教えてください。」

★「今大会の水泳チームは、初出場の選手が多くいました。その選手たちがメダルを獲得してくれて、チームとしても盛り上がりました。メダルに届かなかった選手も、自己ベストや日本記録を更新した選手が多くいましたので、今回初出場だった選手が、パリ大会では、中心選手として活躍してくれることを期待しています。IPC アスリート委員としては、アジア圏のパラスポーツの発展やクラス分け制度の発展に貢献できたらと考えています。」

☆「最後に、鈴木選手を応援しておりました静岡県の水泳関係者のみなさまに一言いただけますでしょうか？」

★「東京パラリンピックに際し、多くの方から温かい応援を頂き、本当にありがとうございました。出場した5種目全てでメダルを獲得することが出来ました。今後もパラスポーツやパラ水泳に興味を持って試合を見て頂けたら嬉しく思います。」

【写真提供：鈴木孝幸選手】

～パラ水泳競技 WPS NTO (パラ水泳国内競技役員) 大澤 稔征さん

<静岡県水泳連盟 競技委員長>

☆「初のパラリンピック競技大会の審判の経験をフリートークでお願いします！」

★「今回のパラリンピックでは、NTO（国内競技役員）として折返監察員とコールルームを担当（招集員）しました。期間中、コールルームにいて感じたことは、選手も審判も初日はとても緊張していましたが、日が経つにつれて徐々に顔つきがほぐれ、お互いに穏やかになっていくことでしたね。また、日本語であいさつをしてくれるなどのフレンドリーさも感じました。母国語が

英語ではない選手たちは、片言ながらも一生懸命に話そうとしたり聞こうとしたりしてくれ、母国語が英語の選手たちは、私たちのつたない英語を一生懸命聞こうとしてくれました。このような触れ合いがとても楽しかったです。

折返監察員としては・・・そうですね・・・。パラリンピック独特の考え方なのかもしれないませんが、日本の大会では、日ごろ「疑わしきは罰せず」ということで審判をしています。しかし、パラリンピックでは、失格については、「とるべきものはしっかりとる」というスタンスだということを実感しました。失格か、否か、ではなく、何か疑問に思ったことがあれば、どんなに些細なことでもアピールをして、ITO（国際競技役員）に伝えるよう指導されました。このことは、今後、国内の大会の中で、何らかの形で生かしていきたいと感じました。」

ATC 内移動バス

＜遊んでいるではありません！＞

【写真提供：大澤稔征さま】

～パラ水泳競技 スポーツアシスタント 望月 仁美さん

＜静岡県水泳連盟 施設委員長・競技委員＞

☆「初のパラリンピック競技大会の運営スタッフでの体験をフリートークでお願いします！」
★「スポーツアシスタントとしての私の業務内容は、大きく2つありました。1つは、「アスリートサービス」として、アスリートの衛生管理、主にトイレの整備やごみの処理等を行いました。



選手もフレンドリー

もう1つは、決勝競技でのメダルハンターとして、メダリストを誘導・案内する業務でした。とにかく、コロナ禍の中での大会でしたので、1に消毒、2に消毒・・・といった感じで消毒の嵐でした。大事な対策の1つではありましたが、大変さを感じたことも否めないです。

選手のみなさんは、とても素直で、「Please wear マスク」と言うと、にこやかにマスク着用に協力してくれました。そんな選手とのコミュニケーションのやりとりも楽しく感じましたよ。

全体的には、アスリートの近くでアスリートに関わる業務だったので、選手を身近に感じることができました。言葉が違う様々な選手たちを応援したり、言葉が通じないながらも交流したりして、とてもいい経験ができたと思います。貴重な体験ができ、とっても楽しかったです。」

【写真提供：望月仁美さま】

みなさんの感想や写真から、このオリンピック・パラリンピックがちょっぴり共有できたのではないのでしょうか？インタビューにお応えくださったみなさま、どうもありがとうございました。

終了した今、「水泳のレガシー」として日本に、また個々に残ったものは、現地にて参加した、しないに関わらず、これによって何かを感じた水泳を愛する者が、後世に伝え、つなげていくことが大切なのかなと感じました。次は3年後のパリ大会です。楽しみにしたいと思います。



公財) 日本水泳連盟 有功章受章♪

中村 信善 副理事長

公財) 日本水泳連盟 有功章受章おめでとうございます！！

この度、中村信善副理事長が、令和3年度公益財団法人日本水泳連盟有功章を受章されました。誠におめでとうございます。

長年にわたり、当連盟の強化・普及の両面の活動にご尽力いただき、現在は当連盟副理事長として、また浜名湾游泳協会の理事長として、運営全般を支え、大きなお力をいただいております。

【受賞の喜びの声】

～この度、静岡県水泳連盟よりご推挙いただき、受章することができました。表彰されるような年齢になったのか…と思いつつ、大変光栄に思っております。今後に向けては、静岡県全体の、そして日本の競技力向上を目指し、「水泳」というスポーツを、更に魅力的な人気の高いスポーツとしていけるよう貢献していきたいと思っています。

この度は、どうもありがとうございました。～



委員会情報

※各委員会より寄せられました情報を掲載いたします♪

★普及委員会★

研修会のお知らせ

公認水泳コーチ1・2、基礎水泳指導員更新研修会

<日時> 2022年2月13日(日) 9:00～16:00

<場所> 静岡県経済産業会館(会場を変更しました)

<講師> 萩原 智子氏(オリンピック、日本水泳連盟アスリート委員長)

<定員> 50名(先着順・県内在住者のみ)

<申込期日> 2021年12月1日(水)～2022年1月14日(金)必着

新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止となる場合は1月末までにホームページでお知らせします。その際、下記対象者のみレポートでの代替措置となります。対象者でない方は、来年度の更新研修会を受講してください。

<対象者> 資格有効期限が「2023年3月31日まで」の者で、4年間で一度も研修会に参加していない者

<課題> 「学科研修レポート」と「実技研修レポート」 それぞれ1000～1500字

<申込期日> 2022年1月31日(月)必着

上記対象者は、更新研修会への参加またはレポートの提出のどちらかにより研修会修了証を発行します。

詳細については、県水連ホームページにある要項をご確認ください。



★AS 委員会★

競技大会のご報告

※第44回 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会

期日 2021年8月21日(土)～25日(水)

場所 神奈川県 横浜国際プール

報告 静岡県からはイール浜松の選手7名が出場しました。コロナ禍において、選手としては開催されるのか不安な中、モチベーションを保ちながら練習を続けることは容易ではなかったと思います。それでもしっかりと結果を残してくれました。

結果 【10～12歳】

ソロ 石原 珊瑚 9位 ソロ 中津川 真穂 23位

デュエット 石原 珊瑚・中津川 真穂 7位

チーム 石原珊瑚・中津川真穂・内山和奏・井手俐亜那・河口陽依 15位

【13～15歳】

ソロ 畑中 愛梨 6位

【15～18歳】

ソロ 高澤 希輝 22位



J0 チームの演技



リズムフェスティバルの子供たち

※リズムフェスティバル

期日 2021年9月11日(土)

場所 浜松市 トビオ

報告 毎年恒例の楽しいリズムフェスティバル

ですが、普段は組めないペアで泳ぐことができる唯一の舞台です。選手皆で自由に演技を考え積極的に取り組みました。参加人数が少なかったため、今後の課題となります。

※2021年度 AS A・B・Jr 日本代表派遣選手 第一次選考会

期日 2021年10月2日(土)～3日(日)

場所 国立スポーツ科学センター

報告 高澤希輝と畑中愛梨の2名が参加し健闘しました。これからが楽しみな選手です。

【写真提供：AS委員会】

★パラ水泳委員会★

パラ水泳委員会では、静岡県障がい者水泳協会と連携して、パラスイマーの強化事業を行っています。今年度は、新型コロナウイルス感染状況を見ながら、7月から徐々に強化練習会をスタートさせています。昨年度は、新型コロナウイルス感染予防対策の関係で大会に出場する機会がなかった選手も多く、練習会もほとんどできなかったため、この日を楽しみにしていた選手も多かったようです。まん延防止等重点措置や緊急事態宣言などの影響もあり、思うように練習会が実施できていませんが、今後も感染症予防対策をしながら、安心して安全な強化事業を計画していきたいと考えています。



県の強化練習会での様子

今夏には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。県内選手の活躍とともに、パラリンピックの種目も注目されています。開催の成果として、今後パラ水泳人口の拡大を期待するとともに、選手の皆さんには更なる競技力の向上を目指して頑張ってくださいと思います。今後も変わらぬご支援、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

強化担当者一同



コロナ禍でのわかふじスポーツ大会

10月17日（日）に「わかふじスポーツ大会」が、新型コロナウイルス感染対策を講じて開催され、競技役員のみなさまのご協力のおかげで、無事に終了することができました。来年度は、参加者の制限もなく通常の大会が開催されることを願いつつ、ご協力いただいたみなさまに感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

大会担当者一同

【写真提供：パラ水泳委員会】

一般社団法人静岡県水泳連盟広報誌

水泳静岡

2021年10月31日発行 第19号

発行所 一般社団法人静岡県水泳連盟

静岡市駿河区南町5-25才茂ビル2F

電話 054-283-6758

FAX 054-280-1340

令和3年10月14日
飛込委員長 内藤英樹

東京2020オリンピック飛込競技解説の報告

解説種目：飛込競技

現地入り：2021年7月23日（金）※7月24日（土）打合せ

解説期間：2021年7月25日（日）～8月7日（土）

解説種目数：全競技解説（予選、準決勝、決勝）16競技

競技日程 (表)

7/25 （日）	7/26 （月）	7/27 （火）	7/28 （水）	7/29 （木）	7/30 （金）	7/31 （土）
女子3m シノ知決勝	男子10m シノ知決勝	女子10m シノ知決勝	男子3m シノ知決勝	競技なし	女子3m 予選	女子3m 準決勝
8/1（日）	8/2（月）	8/3（火）	8/4（水）	8/5（木）	8/6（金）	8/7（土）
女子3m 決勝	男子3m 予選	男子3m 準決・決 勝	女子10m 予選	女子10m 準決・決 勝	男子10m 予選	男子10m 準決・決 勝

この度の東京2020オリンピックでは、大変光栄なことに飛込競技の解説を担当することとなりました。この解説についての報告と所感を述べさせていただきます。

初めに、今回この飛込競技の解説を依頼された経緯や私が依頼を受けることが出来た状況についてお話させていただきます。

先ず解説の依頼につきましては、私自身が日本水泳連盟の強化部として長く在籍していたこと、また今回は、日本での開催ということで多くの飛込関係者は、直接会場で業務を行う大会運営や審判、競技役員などの担当になってしまったこと、それから残念なことに萩田選手が代表になれず代表チームのコーチから私が外れたことなどの状況から抜擢されたものと考えています。

また、依頼を受けることができた状況についても恵まれていました。オリンピックの解説は、表のとおり大会が2週間続きます。この大会期間を基本ひとりの解説者が担当します。よって勤めている会社の理解が必要であること、また、大事な夏のシーズンに指導者が2週間以上いなくなってしまうこと、これらの条件がクリアできなければ依頼を引き受けることができないということです。この件につきましても私は大変恵まれており、勤務先では気持ち良く理解して頂いたこと、飛込の指導については、日頃より在原コーチとともに指導している為、私がいなくても練習が継続でき、あまり大きな影響が出ないこと、この様に

様々な条件が重なり、今回この大変貴重な体験をさせていただけたものと考えています。

そして、いざ解説を引き受け、放送担当者から内容を説明されると大変重責な案件であることに改めて気づかされました。オリンピックの解説とは、放映権、放映料の関係から特別であり、NHKと各民放が協力しあい一つの放送チームを作って、各競技の映像を一本化しています。この映像を各テレビ番組が使用して放送をします。したがって、日本としてのオリンピックの飛込競技の映像は、私が解説する映像しかないことになります。

想像以上に大変だった解説、コロナの関係でオリンピックの開催が危ぶまれていて様々な準備と決定が遅れており、解説者として正式な連絡はオリンピック開催の1ヵ月前の6月中旬頃でした。そこから私も帰宅後に少しずつ飛込競技の最新情報や技術を勉強し直しました。また、担当するアナウンサーの皆様ともZOOMで飛込の勉強会を行いました。

現地入りしてからはさらに大変で解説を行うスタジオは、なんと競技会場のアクアティクスセンタープールサイド(写真1)ではなく、地下鉄で二駅はなれた国際展示場駅(写真2)の東京ビックサイト(写真3)の一角であったこと、要するに私はテレビで見ている皆さんの映像(写真4)と同じものを見ながら解説をしていました。

映像での解説の難しさは、選手個々の緊張感やオーラ、また、会場の雰囲気などが伝えるににくいこと、技術やテクニック面では、映像の角度が迫力や表情を視聴者に伝える為に、常に大きく選手や演技が写されていることで、選手個々の身長差や踏切直後の高さ、着水距離を含めた全体的な流れが見えない為に、選手が瞬時に対応した技術やテクニックを見極めることが大変に困難でした。

この他、解説向けに丁寧な言葉を発しなければならないこと、瞬時に飛込専門用語ではなく視聴者に理解してもらえるような言葉を選びながら話すことなど気をつかうことも多くありました。

飛込情報については、ホテルや空いている時間には常に解説の為に準備をしていました。予選前までには、出場選手の戦歴や演技の特徴を調べ、準決、決勝では予選や準決勝での演技の様子や大会レベルの推測など常に競技についての最新情報を準備していました。また、大会を実写で見られない分、少しでも時間があればアクアティクスセンターに足を運び、大会直前の練習を見て選手の様子を確認していました。

このような調子で2週間飛込競技の解説をさせて頂きました。大変ではありましたが幸せな時間を頂きました。

最後に、飛込競技を知らなかったアナウンサーが勉強をして解説している姿、日々の努力を全力で出し切るスポーツ選手、そんな姿を見ることで、「一生懸命」の素晴らしさを再確認することができました。ありがとうございました。

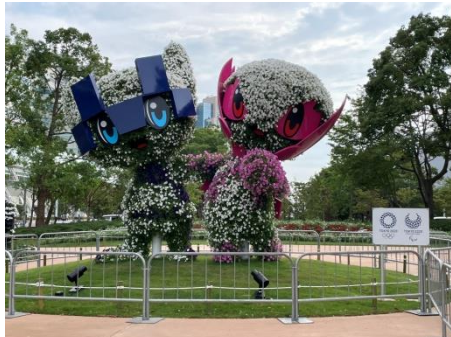
【資料】

◆写真

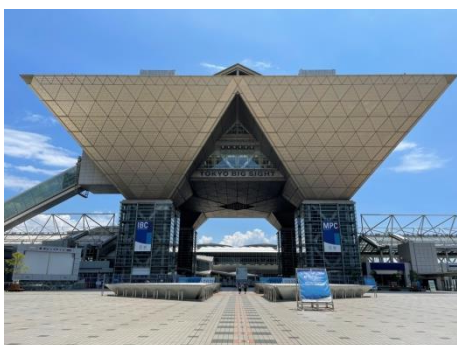
(写真1：アクアティクスセンター)



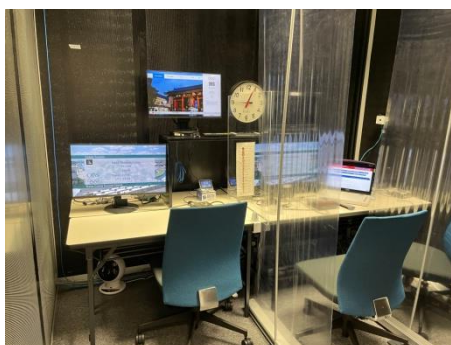
(写真2：国際展示場駅モニュメント)



(写真3：東京ビックサイト)



(写真4：解説スタジオ)



東京 2020 東京オリンピック OWS 日本代表チーム 杉山 康 監督より

ご提供いただきました写真を一気に公開いたします！



マラソンスイミング役員
(飛龍高校卒業生 3 人) と！



選手村五輪マーク前にて全員集合！



近代 5 種監督「村上佳宏くん」と！

注) 清水チャンピオン、清水庵原中卒、沼津学園高校卒、
日本体育大学卒、自衛隊体育学校



選手村の日本チームの宿泊棟にて
国旗にサインをし、勝利に向けて、チーム団結！！



一番右 草薙健太コーチ（オマーンコーチ・中京大学教員）、
一番左 山本あゆ美総務
（浜名高校卒、中京大学卒、東京五輪日本チーム 日本水泳連盟）



選手村ゲートにてチーム全員で